



一人ひとりが主役の学校に

令和5年度が始まりました。先週の金曜日の入学式に81名の1年生を迎える、今年は435人のスタートとなりました。天王寺小学校では、近年校区内に新しいマンションなどが増え、児童数は増加傾向にあります。これは本校に限らず、天王寺区内の多くの学校でも同じだそうです。

現在の天王寺小学校の規模は1学年が2学級から3学級で、学校の大きさからいうと適正の範囲ですが、人数が増えるということはそれだけたくさん人と人とのかかわりが生まれることになります。もちろん良いことも増えますが、トラブルも増えるでしょう。しかし、子どもの数が増えても、これまでがそうであったように、これからも天王寺小学校は一人ひとりの子どもを大切にしたていねいな教育ができる学校をめざしたいと考えています。

では、ていねいな教育とはどういう教育なのでしょうか。ていねいな教育とは、うわべだけ礼儀正しい態度で教えることではありませんし、個々の要求に応じて何でもはいはいと受け入れることとも違います。私は、ていねいな教育とは、教師が子ども一人ひとりをしっかり見つめて教育をすることに尽きると思っています。学級に子どもが30人いれば、担任から見れば1対30の関係でも、子どもからは先生とは1対1です。それぞれの子どもの育ちや生活背景は違いますが、こうした違いを理解して寄り添うことで、ていねいな教育ができると考えています。実際には言うほど細やかな対応はできないかも知れませんが、その気持ちをもって、子どもを励まし導き、保護者と一緒にその成長を確かめ喜びあうという、いたって当たり前のことこそが、ていねいな教育であると信じています。その中では、もちろん子ども自身が努力することは必要ですし、その子のためになると思えば、時には先生が本気で叱ることもあるでしょう。しかし、子どもと先生が、さらに保護者が同じ方を向いて協力していくことで困難は乗り越えられると信じています。

そして、何よりも子どもは学校にとってお客様ではなく、学校を作る主役です。始業式では、今年も自分が何を頑張れば学校が楽しくなるかを考えてもらいました。先生や誰かににしてもらうのではなく、楽しい学校は自分で作る。そんな気持ちで毎日学校に来ることが、主体的な学びにつながると思っています。

今年度の一年間も、学校が子どもたちにとって大きな成長の場となりますよう、ご家庭や学園そして地域の皆様のご理解とご協力を願いいたします。



今年度からの特別支援教育について

昨年の4月に、文部科学省から各教育委員会あてに、特別支援教育についての通知がありました。その内容は、インクルーシブ教育は大切でありそれを進めていくべきだが、特別支援学級に在籍している児童について、個々の学びが適切にできているのか、一律に通常学級で過ごしていないか、その他、これまでの通常学級か特別支援学級かではなく、特別支援学校や通級指導など学びの場所を保護者に丁寧に説明すること、といったものでした。

このことを踏まえ、大阪市教育委員会から本校に、特別支援学級在籍の児童の障がい状況の確認と、あらためて児童に適切な学びの場を検討して、おおむね通常学級で学べるのであれば、通級による指導を実施するようにとの指示がありました。それにより、天王寺小学校では今年度より学校内での通級指導を始めることにしました。

通級指導とは、通常学級でほとんどの授業を受けながら、一部、障がいに応じた特別の指導（学習面・生活面での困難の克服に向けた指導）を受けるという指導形態です。これまで、通常学級での指導か特別支援学級に在籍するかのどちらかしかありませんでしたが、特別支援教育に新たに通級指導という選択肢が増えたことになります。しかし、大事なのは、子どもがどの学級に在籍しているかということではなく、子どもに応じてどのような支援や指導が行われるかということです。限られた人材や時間の中でそれらを行うためにも、学校と保護者がしっかりと意思の疎通を図りながら方向性を確認していくことが大事です。また、障がいや困難さの種類や状況に応じて、さらには子ども自身の成長によって、その支援の内容を適宜見直していくことも必要でしょう。

通級指導については教育委員会作成のリーフレットも学校に置いていますので、お子さんの教育に関してご相談がありましたら、いつでもどうぞ。



天王寺小学校に来て2年目になりました。保護者・地域の皆様に向けて毎日のように学校ホームページを更新していますが、学校についてもっと知ってほしいと思い、今年度は学校だよりから校長コーナーを独立させました。字ばっかりで読みづらいかもしれません、お時間のある時にご覧ください。